

「熊本物産品販売会」ならびに「一番搾り 熊本づくりを味わう会」



熊本地震から6カ月が経過した10月26日。「復興応援 キリン絆プロジェクト」として、熊本支援を行っているキリン株式会社 CSV 推進部は、キリングroup本社において「熊本物産品販売会」と「一番搾り 熊本づくりを味わう会」を開催しました。

2016年10月26日（キリングroup本社 18階「Nagomi」）

食産業復興支援

熊本地震から6カ月が経過した10月26日。「復興応援 キリン絆プロジェクト」として、熊本支援を行っているキリン株式会社 CSV 推進部は、キリングroup本社において「熊本物産品販売会」と「一番搾り 熊本づくりを味わう会」を開催しました。これは、熊本地震の被災地の一日も早い復興への願いを込めて、キリングroup本社社員を対象に行ったものです。当日は、キリンビールマーケティング株式会社熊本支社（現 キリンビール株式会社熊本支社）からも麻生芳彦支社長が駆けつけ、半年間の支援と激励に感謝の意を述べました。

「熊本物産品販売会」では、本社18階「Nagomi」の特設会場に熊本各地の特産品やくまモングッズが並び、社員たちは次々と商品を手に取って購入していました。さらに、10月12日から開始した「一番搾り 熊本づくり」の全国発売を記念し、「一番搾り 熊本づくりを味わう会」も同時開催されました。キリン株式会社 CSV 本部執行役員・CSV 推進部長林田昌也の開会あいさつに続き、約200名のキリングroup社員に加え、熊本県・市の東京事務所職員の皆さまをお招きし、「一番搾り 熊本づくり」や、熊本県八代市のメルシャン八代工場で製造した焼酎「八代不知火蔵 白水」を味わいました。「味わう会」では、熊本市国際コンベンション協会制作の「熊本地震 復興への歩み」や、熊本県出身の著名人らも出演して作られた「フレフレ くまもと！」など、熊本県の現状と復興に向けて頑張っている人々の映像も上映され、参加者は熊本地震の被災地への思いを新たにしました。

また、熊本県関連の報道各社東京支社の方々も、「販売会」や「味わう会」に参加いただきました。

<開会の挨拶>

キリン株式会社 CSV 本部執行役員 CSV 推進部長 林田 昌也

熊本地震の発災から半年が経ちましたが、復興への歩みはまだまだこれからという段階です。私たちキリングループでも微力ながら、どのような形で支援できるかを考え、現在、3つの幹で支援活動を行っています。一つは、日本有数の農業県である熊本県の農業、畜産などの復興支援です。次に、熊本城の復旧や温泉街など、観光の活性化への支援。最後に、公益財団法人日本サッカー協会（JFA）と協働したサッカーを通じた支援「心と身体の元気サポート」の3本柱です。そうした復興支援活動の資金の一部となるのが、「一番搾り 熊本づくり」をはじめとする「47都道府県の一搾り」「八代不知火蔵 白水」「生茶」などの売上や利益の一部によるドネーション（寄付）です。本日の「味わう会」も、「一番搾り 熊本づくり」を味わうと同時に、熊本の現状を知り、今後キリングループがどのように復興支援に貢献できるかをあらためて考える機会にしてほしいと思います。



<支社長からの挨拶>

キリンビール株式会社 熊本支社長 麻生 芳彦

熊本地震に際しては、社員の皆さんからも多くの支援と激励をもらったことにあらためて感謝いたします。「一番搾り 熊本づくり」は、9月26日に福岡工場で行われた出荷式を経て、10月12日より全国発売を開始しました。お陰さまで当初販売目標の12万ケース※を大きく上回る20万ケース以上の受注を獲得し、現在も大変好調に推移しています。発売日当日には、熊本県庁で「一番搾り 熊本づくり」の贈呈式も行いました。その際には、小野副知事から「時間の経過とともに震災への関心や報道が薄れてしまう。そうした中で『一番搾り 熊本づくり』の全国発売は、全国の皆さんにあらためて熊本に関心を寄せていただきたい機会になるのでは」との謝辞をいただきました。

キリンビールマーケティング株式会社 九州統括本部では、「世界一の九州をつくろう」というスローガンの下での営業活動と「復興応援 キリン絆プロジェクト」を融合させながら、微力ではありますが熊本県の皆さまの笑顔と地域の活性化のために貢献していきたいと考えております。

※大びん換算による。



インタビュー①

熊本県 東京事務所 くまもとビジネス推進課長 宮本 真由美 様

このような場を設けていただいたことにお礼申し上げます。また、御社においては発災後に1億円の義援金や、被災者にとってもっとも大事な水（アルカリイオンの水）をご提供いただき深く感謝いたします。さらに、今回の「一番搾り 熊本づくり」の全国発売と1本につき10円の寄付という形での支援も、本当にありがとうございます。今後も「復興応援 キリン絆プロジェクト」を通じて、御社と熊本県の関係が継続していくことを願っております。

インタビュー②

熊本県 東京事務所 総務課長 右田 省二 様

想像以上に多くの社員の方々に集まっていたいただき驚いています。さらに、物産品の購入や「一番搾り 熊本づくり」を通じて、熊本のことを思っていたいただき支援して下さることに、感謝の気持ちでいっぱいです。被災地での復旧・復興の取り組みは、まだ始まったばかり。東日本大震災の例を見ても、これからも各方面からの息の長い支援が必要だと感じています。熊本県が目指す「創造的復興」に向けて、ぜひ今後も御社のお力添えをいただければと思います。

インタビュー③

熊本市 東京事務所 所長 平井 英虎 様

熊本地震に際して、御社より多大な支援をいただき誠にありがとうございます。地震から半年が過ぎ、少しずつ被災地以外の方々の関心が薄れていく中、「一番搾り 熊本づくり」の発売は、明るい話題として全国の皆さんに「熊本」を再認識していただけると同時に、復興にも弾みがつくものと期待しています。熊本市では、シンボルともいえる熊本城を今後20年かけて復旧させる予定です。今後とも末永い支援をよろしくお願いいたします。



インタビュー④

熊本市 東京事務所 シティセールス班 主査 澤田 美奈子 様

熊本地震後、市民の心の支えとなっている熊本城ですが、復旧には長い年月と多額の費用がかかると予想されています。現在、多数の個人の方々から寄付をいただいておりますが、御社のように企業としての支援金も含めた多くの支援が集まることで、熊本城が再び雄姿を取り戻す日が1日でも早くなるのではないかと感じています。また、全国の皆さんには「一番搾り 熊本づくり」を手に取り、味わってもらうことで熊本に思いを馳せていただければ嬉しいです。



左から宮本様、右田様、平井様、澤田様

インタビュー⑤

キリン株式会社 CSV 本部執行役員 ブランド戦略部長 坪井 純子

弊社は、「47 都道府県の一箱搾り」を発売するなど、これまでもそれぞれの地域と一緒に考え、その地域に寄り添ったものづくりにこだわってきました。それだけに、熊本地震後は「自分たちに何ができるのか？」というのが社員に共通した思いだったので、今回の「味わう会」は、それを形にするとてもよい機会になりました。これからもビールをはじめとする飲料を通じて、地域やそこで暮らす人々を元気や笑顔にできるような会社でありたいと思います。



インタビュー⑥

キリン株式会社 CSV 本部 ブランド戦略部 兼丸 英司

熊本地震の発災後は、熊本に赴任していた同期社員を通じて現地の状況を聞いたり、その情報を他の社員に伝えたりしていました。今回の「販売会」や「味わう会」のように実際に熊本県の物産品を購入したり、「一番搾り 熊本づくり」を飲んだりすることで少しでも熊本に関われればと思います。私自身、これまで何度か熊本を仕事や観光で訪れていますが、次に行く際には震災からの復興を目指す熊本の街や人々の姿をしっかりと見ていきたいと考えています。



インタビュー⑦

キリン株式会社 人事総務部 総務担当 高梨 雅裕

以前、熊本支社長を経験しており、熊本に対しては「第二の故郷」といえるほどの思い入れがあります。そうした思いもあり、震災後は自分自身にできることは何かと考えていました。その一つとして10月中旬に熊本を訪れ、かつてのお得意先の店などを回り、直接顔を合わせてお話を聞かせていただきました。今回の「販売会」「味わう会」に、これだけ多くの社員が賛同してくれたのも、私と同じように「自分にも何かできないか」と思っていたからだと感じます。



インタビュー⑧

キリン株式会社 CSV 本部 デジタルマーケティング部 越智 愛

3年間勤務していたことと、自身も九州出身ということもあり、熊本には特別な思い入れがあります。震災後はキリンのメールニュースやSNSを通じて熊本づくりの情報を発信し、全国のお客様から「熊本づくりを買うことで、熊本を応援します!」という心強い言葉をたくさんいただきました。今回の「販売会」は、多くの社員が熊本に想いを馳せて参加できる良い機会だったと感じます。これからも、自分にできることを通して、熊本を応援していきます。

